

平成26年度 授業改善推進プラン【特別活動】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

集団活動における本校の児童の課題として、次の3点があげられる。

- ・ 集団活動になると規律や全体の目的を意識して動ける児童が少ない。
- ・ 積極的に発言・活動する児童が一部に固定してしまう。
- ・ 個々の考えは主張できるが、全体の意見としてまとめていく力が弱い。

こうした課題は本校のみならず、児童の抱える今日的な課題であり、背景となる社会の現状をも反映している。その意味でも「集団およびその一員としての個を育てる」特別活動の意義は極めて大きいと言える。

2 授業改善の方策

学級活動の充実

学級による集団活動は、すべての集団活動の基本になるため、もっとも重要である。

内容としては「話し合いの活動」「集会の活動」「係の活動」「当番の活動」などがある。

「係の活動」「当番の活動」においては、やり通すことが何より大切である。

手だてとして、

- ・ **係活動と当番活動の違いを明確にして取り組む。**
- ・ 係活動の仕事内容は、係ごとに考えたり、学級会等で話し合ったりして創意工夫して取り組めるようにする。
- ・ 当番活動では仕事を単純化・ルーティン化する。(細分化したり、週1で活動させたりする)
- ・ きちんとできたら互いに評価しほめ合うようにする。(朝や帰りの会で確認するなど)

「話し合い活動」においては、**教師が適切なタイミングで指導・助言を行いながら、子供たちが自分たちでよりよい集団決定ができるようにすることが大切。**

手だてとして、

- ・ 「何のために」話し合いをするのか、ねらいを明確につかませる。(方向性を与える)
- ・ 活動全体の中で、児童が話し合いで決めて良いところはどこか、明確に指示する。
- ・ 児童は「係」や「集会」のやり方、内容を考える材料が少ないので、特に低学年では教師が教え、イメージを持たせる。
- ・ **思考の可視化・操作化・構造化を図る。(短冊に意見を書き操作しながら、賛成・反対マークを使う、「出し合う→比べ合う→まとめる」の流れが分かるように示すなど)**

学校行事の充実

学校全体が関わって、一つのことをやり遂げる満足感を味わわせたい。「谷戸二子ども祭り」においては、参加意識を高めていく工夫をする。代表委員会担当は、児童が全体の見通しをもって活動できるよう指導する。また、**異年齢集団による活動を工夫して取り入れる。**